



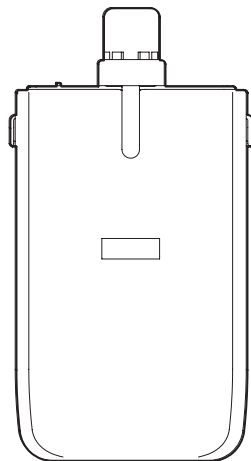
デジタルワイレスマイクロホン (ペンダント型)

型
名

WM-P1080D

取扱説明書

技術基準適合証明品



お買い上げありがとうございます。

ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「電池の取り扱いについてのご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「電池の取り扱いについてのご注意」と本文中の「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

特長

デジタル方式を採用

本機は、デジタル方式を採用した 800 MHz 帯 B 型デジタルワイヤレスマイクロホン（以下、マイクロホン）です。

最大 15 本の同時使用

従来のアナログ方式では 6 本だった同時使用数が大きく拡大されました。
同一空間で最大 15 本の同時使用が可能です。

混信・妨害に強い

従来のアナログ方式に比べて混信・妨害に強く、安定した運用が可能です。

セキュリティ

音声情報の秘匿化により、盗聴に対して高いセキュリティを実現できます。

高音質

従来のアナログ方式に比べてノイズが少なく、クリアな音質です。

大口径マイクユニットを採用

音質を重視した大口径のマイクユニットを採用しています。

もくじ

はじめに

特長.....	2
安全上のご注意.....	4
正しくお使いいただくためのご注意.....	6
各部の名称とはたらき	8

準備

マイクユニットを取り付ける	10
マイクユニットを取りはずす	10
ストラップを取り付ける	11
ストラップにアジャスターを 取り付ける	11
本機にストラップを取り付ける	11
電池(乾電池／専用充電式電池)を 入れる	13
充電をする	15
グループ／チャンネルを設定する.....	16
設定スイッチを設定する	19
送信出力切換を設定する.....	20
音質切換を設定する	21
マイク感度切換を設定する.....	21
チャンネル数選択を設定する	21
グループ種別を設定する.....	21
サブグループを設定する.....	22
セキュリティを設定する.....	22

使う

タイピンマイクキット(別売)を 使う.....	23
ヘッドセットマイクキット(別売)を 使う	24
アナログワイヤレスマイクシステムと 併用する場合	25
グループ／チャンネルの設定一覧表.....	27

その他

こんなときは	28
保証とアフターサービスについて.....	30
仕様.....	31

この取扱説明書の見かた

■本文中の記号の見かた

ご注意： 操作上の注意が書かれています。

メモ： 機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

🔍： 参考ページや参照項目を示しています。

■本書の記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では™、®、©などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示（文字含む）を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています



注意

この表示（文字含む）を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています

■ 絵表示の説明

- 注意（警告を含む）が必要なことを示す記号



一般的注意

- 必ずしてほしい行為（強制・指示行為）を示す記号



一般的指示

- してはいけない行為（禁止行為）を示す記号



注意



分解禁止



水ぬれ禁止



警告

本機を分解、改造しない。
火災、感電の原因となります。
また、本機の改造は法律でも固く禁じられています。



強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。
故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。



充電端子をショートさせない。
故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。



屋外で使用中、雷が鳴り出したら人体から本機を遠ざける。
感電の原因となります。



金属類と一緒に持ち運ばない。
充電端子がショートし、発熱発火の原因となります。



専用の充電式電池、充電器以外は使用しない。
専用品以外を使用すると、故障、発熱、発火の原因となります。



不安定な場所に置かない。
ぐらついている台の上や傾いた所に置かないでください。落ちてけがをしたり、故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。



電池室に金属類などの異物を混入させない。
故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。



注意

本機を濡らさない。
故障、発熱、感電の原因となります。



ストラップやマイクケーブルを持って本機を振り回さない。
けがや故障の原因となります。



装着した状態でストラップやマイクケーブルを強く引っ張らない。
けがや故障の原因となります。



正しくお使いいただくためのご注意

保管および使用場所

■ 次のような場所で使用しない。

故障の原因になります。

- ・ 許容動作温度 (0 °C ~ 40 °C) 範囲外の暑いところや寒いところ
- ・ 許容動作湿度 (30 % ~ 80 %) 範囲外の湿気の多いところ
- ・ ほこりや砂の多いところ
- ・ 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- ・ 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生するところ

■ 直射日光の当たらない、風通しのよい場所に保管する。

故障の原因になります。

■ 長期間 (2 週間以上) 使用しないときは、乾電池または充電式電池を本機からはずす。

乾電池または充電式電池を本機に入れたままにすると、故障、電池漏液の原因になります。

取り扱いについて

■ 「技術基準適合証明品」をあらわす証明ラベルをはがしたり、破いたりしない。

本機には、電波法に基づく「技術基準適合証明品」をあらわす証明ラベルが貼ってあります。証明ラベルをはがしたり、破いたりすると、サービスを受けられないことがあります。

大切に扱ってください。



■ 本機は精密機器です。

下記のような取り扱いをすると、故障の原因となります。

- ・ 人やかたい物、先がとがった物でたたかない。
- ・ 投げつけたりしない。
- ・ 固い床の上や、水の中に落とさない。
- ・ ポケットに入れたまま、いすに座ったり、踏みつけない。
- ・ ストラップやマイクケーブルを持って振り回さない。

■ 電源を入れたままで電池を取りはずさないでください。

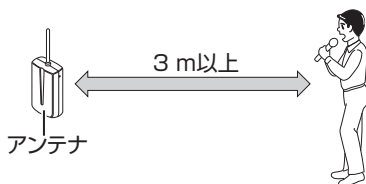
雑音がでる場合があります。

相互妨害について

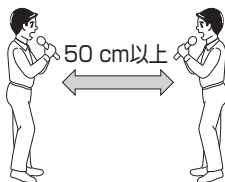
■ 混信や妨害を起こすことがあります。

下記のように使用してください。

- ・ アンテナから 3 m 以上離れる。



- ・ マイクロホン同士を 50 cm 以上離す。



メモ： _____

- 狭い室内など、アンテナから 3 m 以下で使用する場合は、お買い上げ販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

■ 本機を携帯電話から 3 m 以上離れて使用する。

本機の近くで携帯電話の発着信があると、ノイズ(“ジー”または“ブーン”という音)が発生することがあります。

ハウリングについて

■ ハウリング現象(“ピーン”または“キーン”という音)が発生する場合は下記の対応を行なってください。

- ・ 本機の方向、位置などを変える。
- ・ スピーカーから離れる。
- ・ デジタルワイヤレスチューナー(以下、ワイヤレスチューナー)の音量を小さくする。

充電式電池について

■ 専用充電式電池の充放電回数は約 300 回。300 回以下でも動作時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命とされます。新しいものをお買い求めください。

■ 過放電はしないでください。

放電したマイクロホンの電源スイッチを「ON」の状態ですべて長時間放置しないでください。過放電されたバッテリーは充電しても使用できなくなります。

■ 不要になった充電式電池は充電式電池リサイクル協力店へ。

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないでリサイクル協力店へお持ちください。



Ni-MH

マイクユニットについて

■ マイクユニットに衣服などが触れないようにする。

本機にストラップを取り付けて、首から下げて使うときや、ポケットに入れて使うときは、マイクユニットに衣服などが触れないようにしてください。

雑音の原因となります。

お手入れについて

■ 本機はやわらかい布でふく。

シンナーやベンジンなどでふくと表面が溶けたり、くもったりします。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。

■ 充電端子は時々乾いた綿棒で清掃する。

充電端子が汚れていると、接触不良を起し、充電できないことがあります。

省エネについて

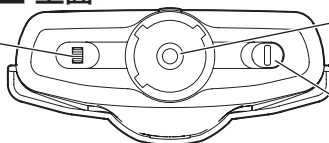
■ 長時間使用しないときは、節電のため、電源を切ってください。

各部の名称とはたらき

■ 上面

電源ランプ（警告灯）

- 電源が供給されると、電源ランプが緑色に点灯します。
- 電池消耗時や、グループ／チャンネルの誤設定などには警告灯として点灯します。（※ 13 ページ、18 ページ）



マイクジャック

マイクユニットを差し込みます。（※ 10 ページ）

電源スイッチ

本機の電源を入／切します。

■ 背面

電池室

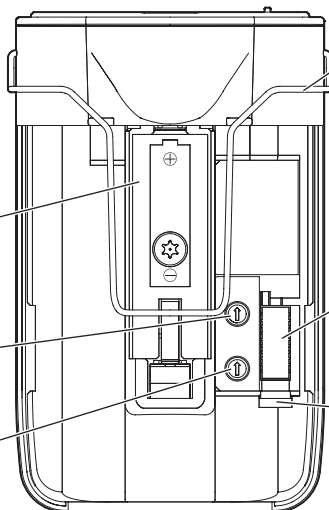
電池（乾電池または専用充電式電池）を入れます。（※ 13 ページ）

グループ設定スイッチ

送信するグループを設定します。（※ 16 ページ）

チャンネル設定スイッチ

送信するチャンネルを設定します。（※ 16 ページ）



クリップ

ストラップ（付属品）を取り付けるときにお使いください。（※ 11 ページ、23 ページ）

設定スイッチ

各種設定を行います。

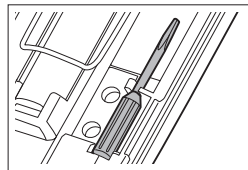
小型ドライバー収納部

小型ドライバー（付属品）を収納します。（※ 17 ページ、19 ページ）

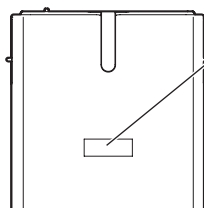
充電端子（底面）

ご注意：

- 充電端子に触ったり、ショートさせないでください。汚れによる充電不良や機器の故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。



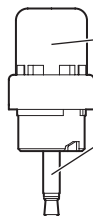
■ 正面



チャンネル表示ラベル貼付部

設定したグループ／チャンネルの番号を貼ります。

■ マイクユニット



マイク部

マイクプラグ

本体のマイクジャックに差し込みます。

■ 設定スイッチ

1		ON	— 1 送信出力切換 (5 mW / 1 mW) (☞ 20 ページ)
2			— 2 音質切換 (標準 / 低域カット) (☞ 21 ページ)
3			— 3 マイク感度切換 (標準 / 低) (☞ 21 ページ)
4			— 4 チャンネル数選択 (10ch / 15ch) (☞ 21 ページ)
5			— 5 グループ種別 (デジタル / アナログ併用) (☞ 21 ページ)
6			— 6、7 サブグループ設定 (0 / 1 / 2 / 3) (☞ 22 ページ)
7			
8			— 8 (使用できません)
9			— 9 セキュリティ ID (デジタルワイヤレスチューナー とのセキュリティ登録設定) (☞ 22 ページ)
0			— 0 セキュリティ (セキュリティの運用設定) (☞ 22 ページ)

※ 下線は工場出荷時の設定です。

■ スイッチ番号の設定事項

スイッチ 番号	設定事項	OFF	ON
1	送信出力切換	5 mW	1 mW
2	音質切換	標準	低域カット
3	マイク感度切換	標準	低
4	チャンネル数選択	10ch	15ch
5	グループ種別	デジタル	アナログと併用
6	サブグループ設定	「サブグループを設定する」 (☞ 22 ページ)	
7			
8	(設定できません)	—	
9	セキュリティ ID	WT-1002D/WT-1004D/WT-UD100D『取扱説明書』を ご覧ください。	
0	セキュリティ	なし	あり

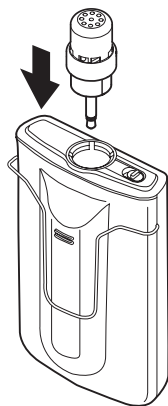
マイクユニットを取り付ける

1. 電源スイッチを切る。

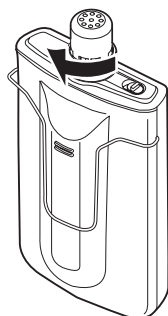
電源ランプが消灯します。

2. マイクユニットを差し込む。

マイクユニットのツメを本体の溝に合わせて差し込みます。



3. マイクユニットを矢印の方向へまわす。

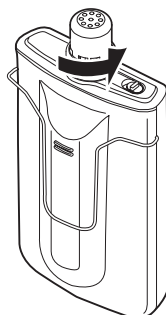


マイクユニットを取りはずす

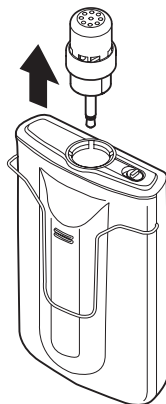
1. 電源スイッチを切る。

電源ランプが消灯します。

2. マイクユニットを矢印の方向へまわす。



3. マイクユニットを抜く。



で注意：

- マイクユニットの取り付け／取りはずしは電源を切った状態で行なってください。電源を入れたまま作業をすると、大きな雑音がでて機器を破損する恐れがあります。

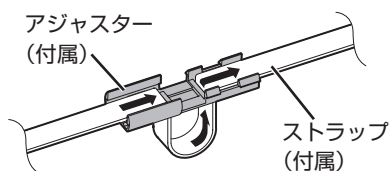
ストラップを取り付ける

- 本機に付属のストラップにアジャスターを取り付けて、首から下げて使います。
- ストラップの長さは、マイクユニットと口との距離が 25 cm 程度になるように調整してください。

ストラップにアジャスターを取り付ける

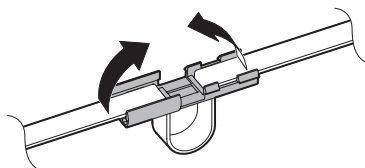
1. ストラップをアジャスターに通す。

ストラップを付属のアジャスターに下図のように通します。



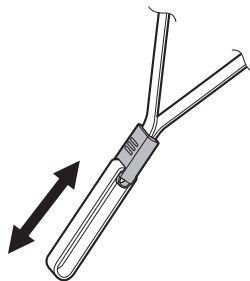
2. アジャスターを閉じる。

アジャスターの左右を合わせて「カチッ」と音がするまで閉じます。



3. ストラップの長さを調整する。

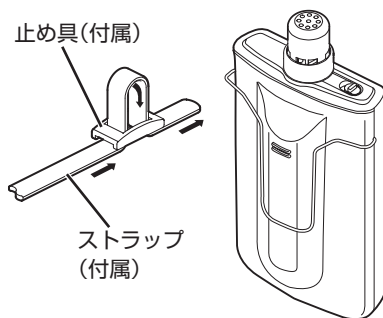
ストラップを下図の矢印の方向に引っ張り、長さを調整します。



本機にストラップを取り付ける

1. ストラップを止め具に通す。

ストラップの紐の端を付属の止め具に下図のように通します。

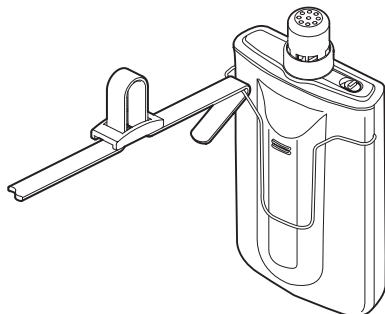


次のページにつづく

ストラップを取り付ける (つづき)

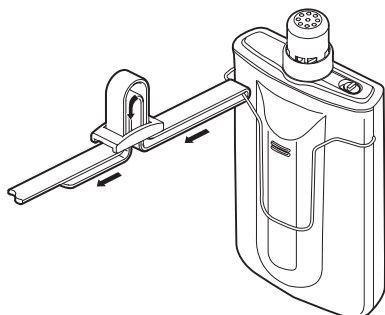
2. ストラップをクリップに通す。

ストラップの紐の端を本機のクリップに下図のように通します。



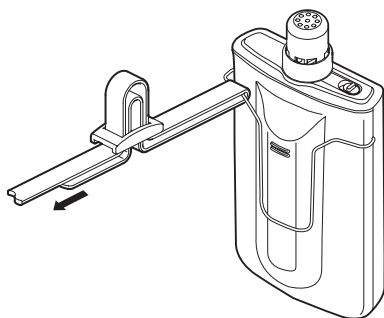
3. ストラップをもう一度付属の止め具に通す。

ストラップの紐の端をもう一度付属の止め具に下図のように通します。



4. ストラップを固定する。

ストラップの長さを調整しながらストラップの紐の端を下図の矢印の方へ強く引っ張り、しっかりと固定します。



5. ストラップのもう一端も同様に取付けます。

ご注意：

- 本機にストラップを取り付けて、首から下げて使用するときは、クリップ側を身体に向けて装着してください。マイクユニットが衣装に触れにくくなり、雑音を防ぐことができます。

電池(乾電池／専用充電式電池)を入れる

電池（乾電池または専用充電式電池）を 1 本入れます。（以後、“乾電池または専用充電式電池”を、“電池”と呼びます。）

■ 使用できる電池

乾電池	市販の単3形 (アルカリまたはマンガン) ※ 本機に付属の乾電池は、動作確認用です。
専用充電式電池	WT-C63 (チャージャー／別売) に付属の専用充電式電池 (ニッケル水素電池) ※ 専用充電式電池については、お買い上げ販売店または、最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

■ 電池の持続時間について

本機の連続使用時間は下記のとおりです。

使用電池	持続時間
単3形アルカリ乾電池 LR6(XJ)	5 時間
専用充電式電池 (充電完了後)	6 時間

※ 持続時間はめやすです。使用状況、電池の状態、周囲の温度などにより変動します。

※ 送信出力切換 5 mW 時

■ 電池の消耗について

電源ランプと電池の状態の関係は下の表のとおりです。

電源ランプ	電池の状態
緑	使用可 (充電不要)
オレンジ	使用可
赤	交換または充電が必要

- 電源ランプが赤色に点灯したら、乾電池の交換または、専用充電式電池を充電してください。
- 電源ランプが赤色点灯に変わってから使用できる時間は下表のとおりです。

使用電池	電池交換または充電時期
乾電池	電源ランプが赤色点灯に変わってから、 20 分以内
専用充電式電池	電源ランプが赤色点灯に変わってから、 5 分以内

※ 電池交換または充電時期はめやすです。使用状況、電池の状態、周囲の温度などにより変動します。

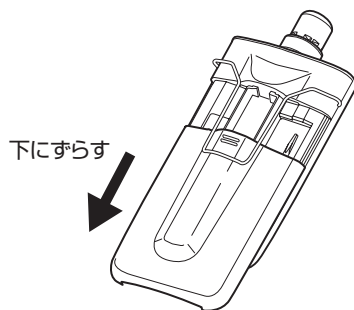
■ 電池 (乾電池／専用充電式電池) の入れ方

1. 電源スイッチを切る。

電源ランプが消灯します。

2. 電池カバーを開ける。

本体部を押さえながら、電池カバーを下方向にずらします。

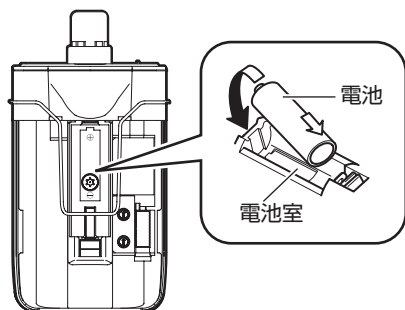


次のページにつづく

電池（乾電池／専用充電式電池）を入れる （つづき）

3. 電池を入れる。

電池の $\oplus$ と、電池室の $\oplus$ 表示を合わせ、必ず電池の $\ominus$ 側から下図のように入れます。

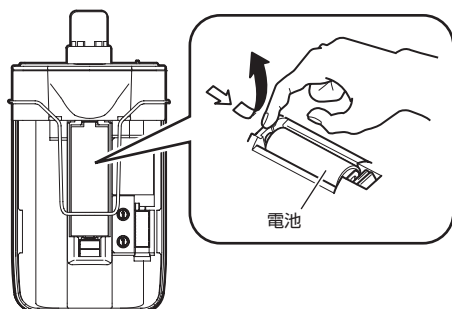


ご注意：

- 電池を入れるときに $\ominus$ 端子をつぶさないようにしてください。

電池を取り出すときは...

- 電池の $\oplus$ 側を下図のように矢印の方向に持ち上げてください。



4. 電池カバーを閉める。

本体部を押さえながら、電池カバーのツメを本体の溝に差し込み、上方向にずらして閉めます。



充電をする

- 専用充電式電池で本機を使用しているときに、電源ランプが赤色に点灯したら充電してください。
- 別売の充電器（以下、チャージャー）WT-C63 を使って充電します。WT-C63 の取扱説明書もご覧ください。

ご注意：

- WT-C63 以外のチャージャーを使用しないでください。
- 専用充電式電池は、WT-C63 に付属の専用充電式電池（ニッケル水素電池）を使用してください。専用充電式電池については、お買い上げ販売店または、最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。
- 充電端子のお手入れを定期的に行なってください。お手入れの方法は、WT-C63 に添付されている「充電端子のお手入れについて」をご覧ください。

1. 本機の電源スイッチを切る。

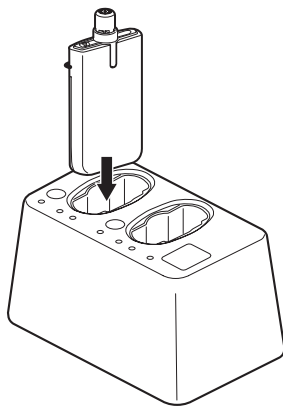
電源ランプが消灯します。

ご注意：

- 本機の電源スイッチが“ON”のままで、正常に充電されません。

2. 本機をチャージャー（WT-C63）に差し込む。

- 本機をチャージャー（WT-C63）に差し込みます。（下図参照）
- 正しく差し込まれると、“種別表示ランプ”がオレンジ色に点灯します。
- 充電が開始すると、チャージャー（WT-C63）の“充電中表示ランプ”が赤色に点灯します。



3. 充電完了。

充電が終了すると、チャージャー（WT-C63）の“充電完表示ランプ”が緑色に点灯します。

ご注意：

- 本機が正しく差し込まれていない場合は、チャージャー（WT-C63）の“充電中表示ランプ”が点灯しません。正しく差し込んでください。

グループ／チャンネルを設定する

- ・ワイヤレスチューナーのグループ／チャンネル設定に合わせて設定します。
- ・設定をするときは、ワイヤレスチューナーの取扱説明書もご覧ください。
- ・組み合わせ可能なワイヤレスチューナーおよびワイヤレスチューナーユニットは、WT-1002D、WT-1004D、WT-UD1003D、WT-UD100D です。

メモ： _____

- 本文中では、グループ／チャンネルの組み合わせの表記に“B”を付けて記載しています。

例：BC1

└─ グループ内のチャンネル番号

└─ グループ番号

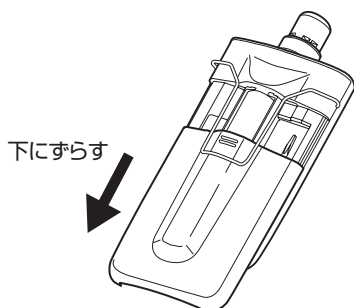
└─ 800 MHz B 帯を表す呼称

1. 本機の電源スイッチを切る。

電源ランプが消灯します。

2. 電池カバーを開ける。

本体部を押さえながら、電池カバーを下方向にずらします。



3. グループ／チャンネルの組み合わせを選択する。

グループ／チャンネルの設定組み合わせは下表をご覧ください。

＜グループ／チャンネル組み合わせ表＞

呼称	グループ \ チャンネル	1	2	3	4	5	6
		1	2	3	4	5	6
B	A	BA1	BA2	BA3	BA4	BA5	—
	B	BB1	BB2	BB3	BB4	BB5	—
	C	BC1	BC2	BC3	BC4	BC5	—
	D	BD1	BD2	BD3	BD4	BD5	—
	E	BE1	BE2	BE3	BE4	BE5	—
	F	BF1	BF2	BF3	BF4	BF5	—

※ “—” 部の設定は使用できません。
(工場出荷時：「BC1」)

ご注意： _____

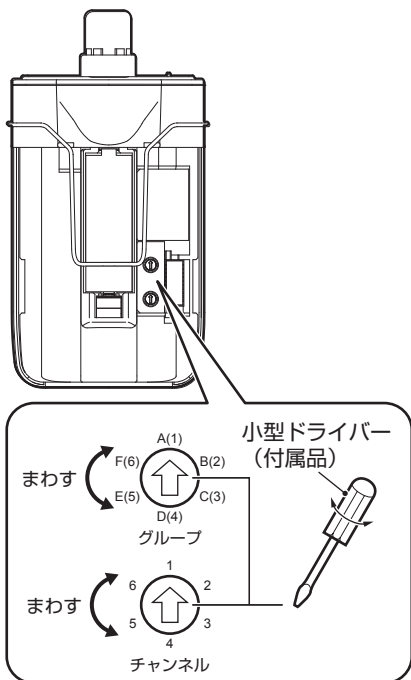
- マイクロホンに 1 ～ 5 本で使用する場合は、グループを A ～ F から 1 つ選択してください。
6 ～ 10 本で使用する場合は、グループを A B、または C D、または E F から 2 つ選択してください。
11 ～ 15 本で使用する場合は、チャンネル数選択の設定を「15ch」にし、グループを A D E、または B C F から 3 つ選択してください。
(27 ページ)

4. グループ／チャンネルを設定する。

付属の小型ドライバーで、グループ／チャンネル設定スイッチの矢印を手順3.で選択した値に合わせます。

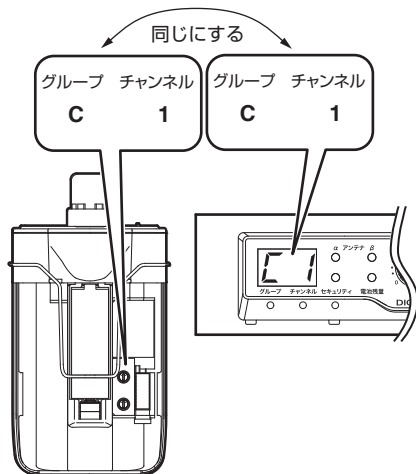
ご注意：

- グループ／チャンネルスイッチを、頻繁にまわしたり、強い力で押し付けないでください。故障の原因となります。
- 本機の電源を入れたまま、グループ／チャンネルの設定を変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

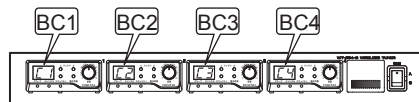


ご注意：

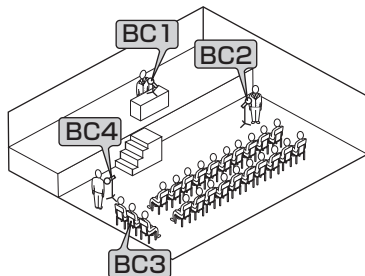
- 本機とワイヤレスチューナーのグループ／チャンネル設定が同じになるように設定してください。



- 同一場所で、マイクロホンを同時に2本以上使用する場合は、同じグループで違うチャンネルに設定してください。6本以上使用する場合は、同時使用できるグループを選択してください。(P.27 ページ)



<ワイヤレスチューナー>

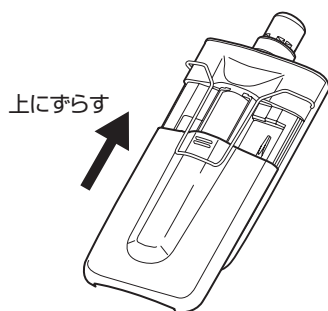


次のページにつづく

グループ／チャンネルを設定する（つづき）

5. 電池カバーを閉める。

本体部を押さえながら、電池カバーのツメを本体の溝に差し込み、上方向にずらして閉めます。



6. ワイヤレスチューナーで受信を確認する。

本機の電源を入れます。

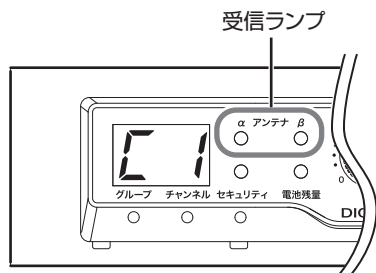
ご注意： _____

- 正常に設定されていない場合、本機の電源を入ると、電源ランプが緑と赤に交互に点灯します。再度、グループ／チャンネル設定を見直してください。

近くにワイヤレスチューナーがあるときの確認方法

本機の電源を入れたとき、ワイヤレスチューナーの受信ランプが点灯すると、正常に設定されています。

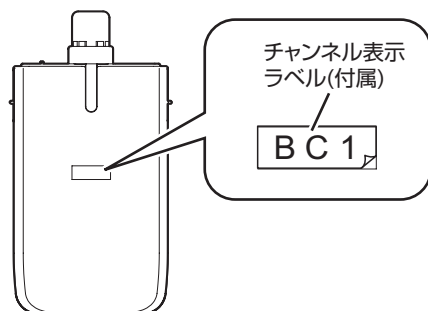
点灯しない場合は、グループ／チャンネル設定を見直してください。



＜ワイヤレスチューナー＞

メモ： _____

- 設定が終わったら、付属のチャンネル表示ラベルを本機の所定の場所に貼ることをおすすめします。



設定スイッチを設定する

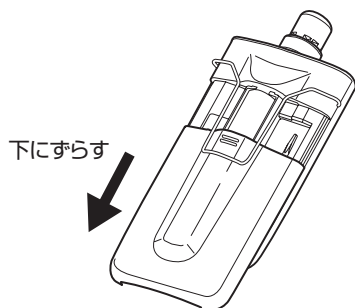
使用場所に応じて、設定スイッチを ON、OFF のどちらかに設定します。

1. 本機の電源スイッチを切る。

電源ランプが消灯します。

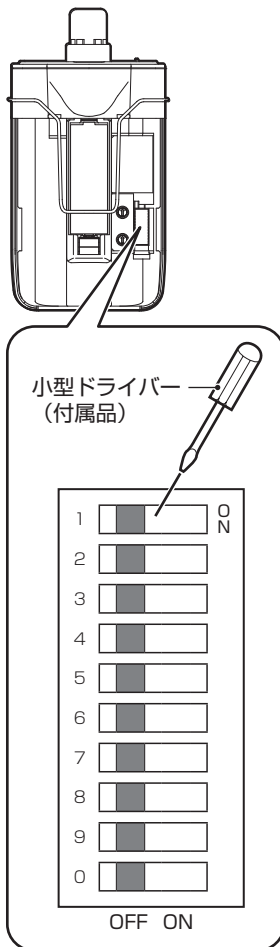
2. 電池カバーを開ける。

本体部を押さえながら、電池カバーを下方向にずらします。



3. 設定スイッチを使用場所に応じて設定する。

付属の小型ドライバーなどを使って設定スイッチを設定します。



(工場出荷時：すべて「OFF」)

次のページにつづく

設定スイッチを設定する（つづき）

■ スイッチ番号の設定事項

スイッチ番号	設定事項	OFF	ON
1	送信出力 切換	5 mW	1 mW
2	音質切換	標準	低域 カット
3	マイク感度 切換	標準	低
4	チャンネル数 選択	10ch	15ch
5	グループ 種別	デジタル	アナログ と併用
6	サブグループ	「サブグループを設定する」(※ 22 ページ)	
7	設定		
8	(設定できません)	—	
9	セキュリティ ID	WT-1002D/WT-1004D/WT-UD100D 『取扱説明書』をご覧ください。	
0	セキュリティ	なし	あり

ご注意： _____

- チャンネル数選択、グループ種別、サブグループ設定、セキュリティの設定は、ワイヤレスチューナーと同じ設定にしてください。

4. 電池カバーを閉める。

本体部を押さえながら、電池カバーのツメを本体の溝に差し込み、上方向にずらして閉めます。



ご注意： _____

- 本機の電源を入れたまま、設定スイッチを変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

送信出力切換を設定する

送信出力切換の設定は、設定スイッチの1番を OFF、ON のどちらかに設定します。

1  OFF : 「5 mW」

1  ON : 「1 mW」

(工場出荷時：「5 mW」)

- ・ アンテナから距離がある場所で使用する場合は、「5 mW」に設定します。
- ・ 狭い場所または、近くで複数のチャンネルを使用している場合は、「1 mW」に設定します。

ご注意： _____

- 本機の電源を入れたまま送信出力切換の設定を変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

音質切換を設定する

音質切換の設定は、設定スイッチの2番をOFF、ONのどちらかに設定します。

2  OFF : 「標準」

2  ON : 「低域カット」

(工場出荷時 : 「標準」)

- ・低い音のノイズが気になるときは「低域カット」に設定します。

ご注意 :

- 本機の電源を入れたまま音質切換の設定を変更すると、ノイズの原因となります。音質切換の設定を変更するときは、必ず本機の電源を切ってください。

マイク感度切換を設定する

マイク感度切換の設定は、設定スイッチの3番をOFF、ONのどちらかに設定します。

3  OFF : 「標準」

3  ON : 「低」

(工場出荷時 : 「標準」)

- ・大きな声で使用するときやマイクロホンを口元に近づけると、音がひずむときは「低」に設定します。
- ・小さな声で使用するときやマイクロホンを口元から離すときは「標準」に設定します。

■ 最大入力音圧のめやす

マイク感度切換	最大入力音圧
標準	112 dB SPL
低	118 dB SPL

ご注意 :

- 本機の電源を入れたままマイク感度切換の設定を変更すると、ノイズの原因となります。マイク感度切換の設定を変更する場合は、必ず本機の電源を切ってください。

チャンネル数選択を設定する

チャンネル数選択の設定は、設定スイッチの4番をOFF、ONのどちらかに設定します。

4  OFF : 「10ch」

4  ON : 「15ch」

(工場出荷時 : 「10ch」)

- ・同一空間で使用するマイクロホンが11本以上の場合は、「15ch」に設定します。
- ・同一空間で使用するマイクロホンが10本以下の場合は、「10ch」に設定します。

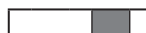
ご注意 :

- 本機の電源を入れたままチャンネル数選択の設定を変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。
- 「15ch」は「10ch」に比べて音質が低下します。

グループ種別を設定する

グループ種別の設定は、設定スイッチの5番をOFF、ONのどちらかに設定します。

5  OFF : 「デジタル」

5  ON : 「アナログと併用」

(工場出荷時 : 「デジタル」)

- ・アナログ方式のマイクロホンと同一空間で使うときは「アナログと併用」に設定します。(P.25 ページ)

ご注意 :

- 本機の電源を入れたままグループ種別の設定を変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

設定スイッチを設定する（つづき）

サブグループを設定する

サブグループの設定は、設定スイッチの 6 番と 7 番を OFF、ON のどちらかに設定します。

6

OFF

7

OFF

「0（なし）」

6

ON

7

OFF

「1」

6

OFF

7

ON

「2」

6

ON

7

ON

「3」

- （工場出荷時：「なし」）
- 近接した空間で同じグループ、チャンネルを使用する場合など、混信を防ぎたいときは、「1」～「3」に設定します。
 - 同じサブグループ番号に設定したワイヤレスチューナーで音声を出力します。

■ 音声を出力する組み合わせ

ワイヤレス チューナー マイクホン	「00 （なし）」	「01」	「10」	「11」
「0（なし）」	○	×	×	×
「1」	○	○	×	×
「2」	○	×	○	×
「3」	○	×	×	○

ご注意： _____

- 本機の電源を入れたままサブグループ設定を変更しても、新しい設定になりません。
一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

セキュリティを設定する

セキュリティの設定は、設定スイッチの 0 番を OFF、ON のどちらかに設定します。

0

OFF

「なし」

0

ON

「あり」

（工場出荷時：「なし」）

- 「あり」に設定した場合、ワイヤレスチューナーを認証登録していないと音声を出力できません。
- セキュリティの認証登録、および設定スイッチの 9 番（セキュリティ ID）については、デジタルワイヤレスチューナー WT-1002D/WT-1004D/WT-UD100D『取扱説明書』をご覧ください。

ご注意： _____

- 本機の電源を入れたままセキュリティの設定を変更しても、新しい設定になりません。
一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

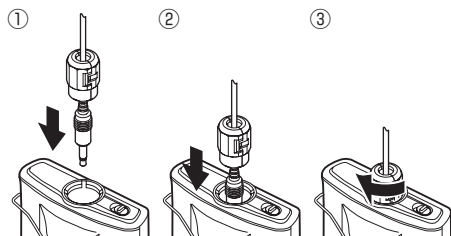
タイピンマイクキット (別売) を使う

マイクユニットの代わりに別売のタイピンマイクキット WT-UM80 を使います。
WT-UM80 の取扱説明書もお読みください。

1. マイクユニットをはずす。

(☞ 10 ページ)

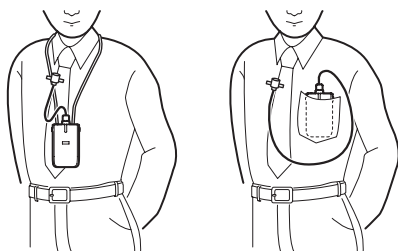
2. タイピンマイクを本体に取り付ける。



- ① プラグを差す
- ② キャップのツメを本体の溝に合わせて
キャップを差し込む
- ③ 矢印の方向へまわす

■ 本体の収納、装着のしかた

本体は衣服のポケットに入れるか、付属のストラップに取り付けて首からさげてください。

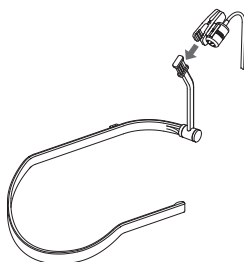


ご注意：

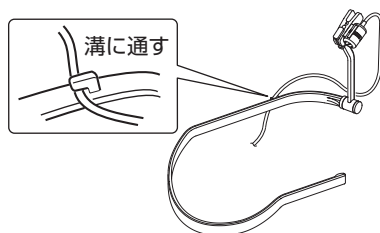
- 本体は金属製のヘアピンなどと一緒にポケットには入れないでください。
- クリップに金属物が触れると雑音が発生することがあります。

■ ネックホルダーの使い方

1. タイピンマイクをネックホルダーに取り付ける。

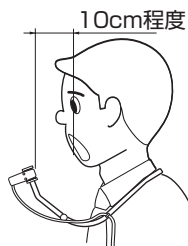


2. マイクケーブルをネックホルダーの溝に通す。



狭い室内で、スピーカーから近すぎる場合など、ハウリングが発生しやすくなるときは、タイピンマイクキットに付属のネックホルダーのご使用をおすすめします。このときは、本体のマイク感度設定スイッチを「低」に設定します。(☞ 21 ページ)

ネックホルダーを装着するときは、マイク部と口との距離が 10 cm 程度になるようにしてください。
近すぎると雑音の原因となります。



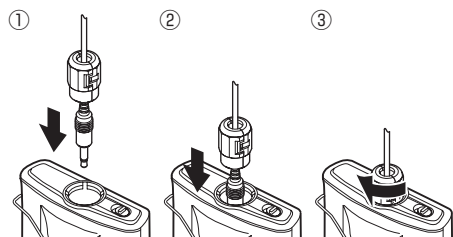
ヘッドセットマイク キット（別売）を使う

マイクユニットの代わりに別売のヘッドセットマイクキット WT-UM82 を使います。
WT-UM82 の取扱説明書もお読みください。

1. マイクユニットをはずす。

(☞ 10 ページ)

2. ヘッドセットマイクを本体に取り付ける。



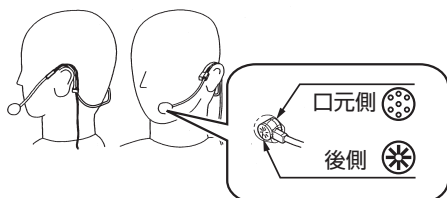
- ① プラグを差す
- ② キャップのツメを本体の溝に合わせて
キャップを差し込む
- ③ 矢印の方向へまわす

3. マイク感度を設定する。

本体のマイク感度切換スイッチを「低」に設定します。(☞ 21 ページ)

■ ヘッドセットマイクの装着のしかた

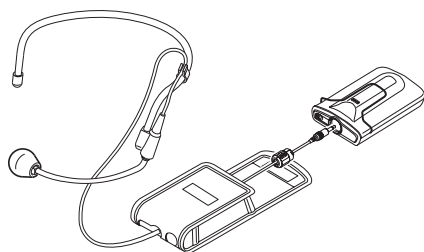
左右両方の耳にかけてお使いください。
マイクロホンは方向性があります。正しく口元に向けてください。方向が合っていないと、音声小さくなります。



■ ウエストバッグへの収納のしかた
ヘッドセットマイクキット WT-UM82 に
付属のウエストバックに収納します。

1. マイクユニットを本体から取りはずす。(☞ 10 ページ)

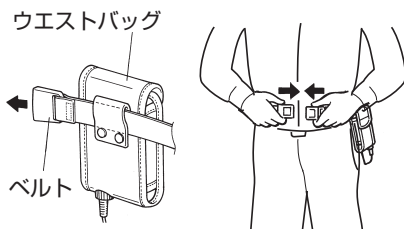
2. 図のようにマイクケーブルをウエストバッグに通し、ヘッドセットマイクキットと本体を取り付ける。



3. 本体をウエストバッグに収納する。

■ ウエストバッグの装着のしかた

ヘッドセットマイクキットに付属のベルト
(ウエストサイズ 90 cm まで対応可) を
ウエストバッグに通すと、スポーツウェア
などベルトのない衣服に装着できます。
(ズボンのベルトにウエストバッグを通す
こともできます。)



アナログワイヤレスマイクシステムと併用する場合

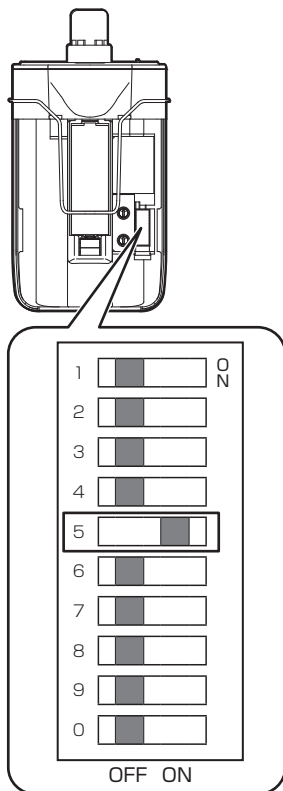
本機は、アナログワイヤレスマイクシステムと併用して使うことができます。

ご注意：

- 本機は、アナログワイヤレスマイクシステムとして使用することはできません。また、アナログワイヤレスチューナーでの受信はできません。
- 本機をアナログワイヤレスマイクシステムと併用した場合、グループ／チャンネルのみ設定できます。

1. グループ種別を設定する。

グループ種別を「アナログと併用」に設定します。(P. 21 ページ)



5  ON : 「アナログと併用」

次のページにつづく

アナログワイヤレスマイクシステムと併用する場合(つづき)

2. グループ／チャンネルの組み合わせを選択する。

グループ／チャンネルの組み合わせは下表をご覧ください。

＜アナログ併用時のグループ／チャンネル組み合わせ表＞

呼称	チャンネル	1	2	3	4	5	6
	グループ						
B	1	B11	B12	B13	B14	B15	B16
	2	B21	B22	B23	B24	B25	B26
	3	B31	B32	B33	B34	B35	B36
	4	B41	B42	B43	B44	B45	B46
	5	B51	B52	B53	B54	B55	—
	6	B61	—	—	—	—	—

※ “—” 部の設定は使用できません。

※ グループ／チャンネルの組み合わせの “B” は、800 MHz B 帯を表す呼称です。

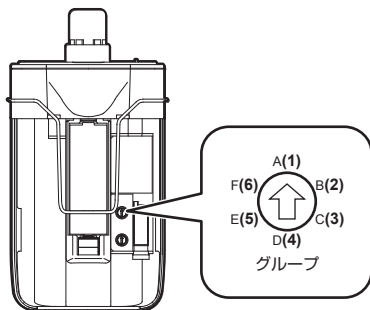
ご注意：

- グループを 1 ～ 6 から 1 つ選択してください。同時に使用できるマイクロホンは最大 6 本です。
- チャンネル数選択の設定が「10ch」の場合、デジタルマイクロホンは「アナログ併用時のグループ／チャンネル組み合わせ表」の 部 (B11、B12、B21、B22、B31、B32、B44、B45、B52、B53) の設定は同時に使用できません。チャンネル数選択の設定が「15ch」の場合、すべてのグループ／チャンネルで使用できます。
(16 27 ページ)

3. グループ／チャンネルを設定する。

グループ／チャンネルを設定します。
(16 16 ページ)

このとき、グループ設定スイッチは () 内の数字がグループを表します。



■ グループ／チャンネル構成例

チャンネル数選択の設定「10ch」、
使用グループ「3」

アナログワイヤレスマイクロホン
(アナログ)：3 本、
デジタルワイヤレスマイクロホン
(デジタル)：2 本の場合

グループ／チャンネル	使用例 (1)	使用例 (2)	使用例 (3)
B31	使用不可	アナログ／デジタル	アナログ
B32	アナログ／デジタル	使用不可	アナログ
B33	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B34	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B35	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B36	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	使用なし

グループ／チャンネル の設定一覧表

<同時使用できるグループ／チャンネルの一覧表>

運用	マイクロホン 使用本数	チャンネル数 選択の設定 (※ 1)	選択した グループ	同時使用できる グループ／チャンネル
デジタル ワイヤレス マイク システム	1 ～ 5	10ch	A	BA1 ～ BA5
			B	BB1 ～ BB5
			C	BC1 ～ BC5
			D	BD1 ～ BD5
			E	BE1 ～ BE5
			F	BF1 ～ BF5
	6 ～ 10	10ch	A B	BA1 ～ BA5、BB1 ～ BB5
			C D	BC1 ～ BC5、BD1 ～ BD5
			E F	BE1 ～ BE5、BF1 ～ BF5
アナログ ワイヤレス マイク システムと併用	1 ～ 6	10ch (※ 2) /15ch	A D E	BA1 ～ BA5、BD1 ～ BD5、BE1 ～ BE5
			B C F	BB1 ～ BB5、BC1 ～ BC5、BF1 ～ BF5
			1	B11 ～ B16
			2	B21 ～ B26
			3	B31 ～ B36
			4	B41 ～ B46
			5	B51 ～ B55
			6	B61

(※ 1) マイクロホンとワイヤレスチューナーのチャンネル数選択の設定を同じにしてください。
(※ 16 ページ、25 ページ)

(※ 2) チャンネル数選択の設定が「10ch」の場合、デジタルマイクロホンは B11、B12、B21、
B22、B31、B32、B44、B45、B52、B53 の設定は同時に使用できません。
(※ 25 ページ)

ご注意：

- 上記以外のグループ／チャンネルで使用した場合、ノイズが発生する、音声途切れ、受信できないなどの影響がでる可能性があります。

こんなときは

使用中に不具合が生じたときは、下記の内容を調べてください。

それでも症状が改善されないときは、お買い上げ販売店または、サービス窓口にお問い合わせください。

症状	確認事項	処置	参照 ページ
電源スイッチを“ON”にしても、電源ランプが点灯しない。	電池は正しく入っていますか。	電池を正しく入れてください。	13
	電池切れになっていませんか。	充電式電池を充電してください。	15
		新品の乾電池と交換してください。	13
	マイクユニット、またはタイプピンマイクやヘッドセットマイクのプラグが本体からはずれていませんか。	マイクユニット、またはタイプピンマイクやヘッドセットマイクのプラグを本体にしっかり差ししてください。	10
電源スイッチを“ON”にしたときや、使用中に、電源ランプが赤色に点灯する。	電池が消耗しています。	充電式電池を充電してください。	15
		新品の乾電池と交換してください。	13
電源スイッチを“ON”にしたとき、電源ランプが緑色⇄赤色と交互に点灯する。	グループ／チャンネル設定スイッチは正しい位置にありますか。	グループ／チャンネル設定スイッチを正しい位置に設定してください。	16、 19
電源スイッチを“ON”にしたときや、使用中に、電源ランプが赤色に点滅する。	—	お買い上げ販売店または、最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。	—
送信できない。(デジタルワイヤレスチューナーの受信ランプが点灯しない)	本機とワイヤレスチューナーは、同一グループ／チャンネルに設定されていますか。	本機とワイヤレスチューナーを、同一グループ／チャンネルに設定してください。	16、 19
送信できない。(ワイヤレスチューナーの受信ランプがオレンジ色に点灯する) ※ WT-UD100D の場合は点灯しません。	本機とワイヤレスチューナーは、同一のチャンネル数選択に設定されていますか。	本機とワイヤレスチューナーを、同一のチャンネル数選択に設定してください。	19、 21
	セキュリティ機能を使用している場合、本機とワイヤレスチューナーは認証された組み合わせですか。	本機とワイヤレスチューナーを認証された組み合わせでご利用ください。	22
送信できない。(ワイヤレスチューナーの受信ランプは点灯するが、音がでない)	本機とワイヤレスチューナーは、同一のサブグループ設定にされていますか。	本機とワイヤレスチューナーを、同一のサブグループ設定にしてください。	19、 22

症状	確認事項	処置	参照 ページ
雑音がでる、音が途切れる。 (本機を1本のみ使用)	アンテナから離れた場所にいませんか。	アンテナに近づいてください。	—
	本機の近くに金属類や、携帯電話などの無線機器はありませんか。	本機から、金属類や、携帯電話などの無線機器を離してください。	6
雑音がでる、音が途切れる、混信する。 (同一の場所で、本機を2本以上同時に使用)	グループ／チャンネルの設定が同じマイクロホンはありませんか。	グループ／チャンネルを正しく設定してください。	16、19
	マイクロホン同士が近づきすぎていませんか。	マイクロホン同士を 50 cm 以上離してください。	6
	マイクロホンとアンテナが近づきすぎていませんか。	マイクロホンとアンテナを 3 m 以上離してください。	6
	送信出力が大きすぎませんか。	送信出力切換を、“1 mW” に設定してください。	20
充電できない。	電池は正しく入っていますか。	電池を正しく入れてください。	13
	乾電池が入っていませんか。	充電式電池を入れてください。	13
	本機またはチャージャーの充電端子が汚れていませんか。	本機またはチャージャーの充電端子を清掃してください。	15

保証とアフターサービスについて

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

サービス窓口

- ・ 下記 URL をご覧ください。
<http://www3.jvckenwood.com/pro/service.html>
- ・ カスタマーサポートセンター
(045-939-7320)

サービスについてのお問い合わせ先

修理・保守・設置工事については、お買い上げ販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはサービス窓口に次のことをお知らせください。

品名	: デジタルワイヤレス マイクロホン(ペンダント型)
型名	: WM-P1080D
お買い上げ日	:
故障の状況	: 故障の状態をできるだけ 具体的に
ご住所	:
お名前	:
電話番号	:

付属品および添付品について

この取扱説明書に記載されている「小型ドライバー」などの付属品および添付品は、保証期間内でも有償となります。お買い求めの際は、お買い上げ販売店、または最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

仕様

型 名	WM-P1080D
送 信 周 波 数	806.125 MHz ～ 809.750 MHz 間の 30 波から 1 波を選択
電 波 型 式	G1E、G1D
発 振 方 式	水晶制御 PLL シンセサイザー方式
変 調 方 式	位相偏移変調方式 ($\pi/4$ シフト QPSK)
空 中 線 電 力	5 mW、1 mW 2 段階切換式
ア ン テ ナ	本体内蔵方式
実 用 到 達 距 離	約 100 m (屋外の見通しのよい場所で、当社製チューナー /WT-1002D または WT-1004D とアンテナ /WT-Q830 との組み合わせ時、かつ空中線電力 5 mW 時)
マイクロホン型式	単一指向性エレクトレットコンデンサー型
最 大 入 力 音 圧	112 dB SPL (マイク感度切換:標準) /118 dB SPL (マイク感度切換:低)
電 源 (使用電池)	DC 1.5 V (単 3 形乾電池× 1) または、DC 1.2 V (専用充電式電池× 1)
電 池 寿 命 (空中線電力 5 mW 時)	約 5 時間 (単 3 形アルカリ乾電池 /LR6(XJ) 使用、常温で連続使用時) 約 6 時間 (専用充電式電池使用 (充電完了後)、常温で連続使用時)
動 作 温 度 範 囲	0℃ ～ 40℃
外 形 寸 法	62 mm (W) × 100.5 mm (H) × 26 mm (D)
質 量	約 90 g (電池含まず)
仕 上 げ	ポリカーボネート、塗装 ABS 樹脂、ブラック
付 属 品・添 付 物	保証書 1 電池の取り扱いについてのご注意 1 取扱説明書 (本書) 1 チャンネル表示ラベル 1 ストラップ 1 止め具 2 アジャスター 1 ソフトバック 1 単 3 形乾電池 (動作確認用) 1 小型ドライバー (チャンネル設定用) 1

※ 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

**JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター**

固定電話  **0120-2727-87**

携帯電話・PHS  **0570-010-114**

一部のIP電話など **045-450-8950**

FAX **045-450-2308**

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12